

摘果作業について県中央農業改良普及センターの担当者から説明を受ける部会員ら



摘果作業が重要。品質向上のためにも、適期作業を心がけてほしい」と呼びかけた。

同部会では、部会員78人が約24畝で栽培している。

(三重・伊勢)

## 品質向上へ

### 「次郎」指導

三重・JA伊勢

三重県のJA伊勢玉城柿部会は6月中旬、玉城町内の園地で柿「次郎」の摘果講習会を開いた。

園地2カ所で部会員25人が参加。県中央農業改良

普及センターと同JAの担当者の指導で、摘果方法の説明を受けた。

当日は、高品質な果実を実らせるために不良な実を現時点で落とす粗摘果作業や、翌年のための新梢（しんしょう）管理、病害虫防除などを確認した。

「次郎」は、完全甘柿で果汁が少なく、大きくて歯応えがある。干し柿にした「玉手柿」も人気だ。

担当者は「安定した収量を確保するためには、